

令和5年度 陽南小学校 学校評価書

1 教育目標（目指す児童像含む）

日本国憲法及び教育基本法の精神、栃木県及び宇都宮市の教育目標、そして児童の実態や社会・地域の要請を受け、人間尊重の教育を基盤とした本校の教育目標を次のように設定する。

(1) 基本目標

心身ともに健康で創造性に富み、心豊かで実践力のある児童を育成する。 【自分に自信をもてる子を育てます】

(2) 具体目標（具体的な児童像など）

- ・自ら学び、ねばり強く努力する児童 (楽しく学ぶ子)
- ・思いやりをもち、助け合う児童 (仲よく助け合う子)
- ・健康と安全に留意し、元気に活動する児童 (元気に活動する子)

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

陽南小学校のよき伝統と校風を引き継ぎ、すべての教職員の力を結集するとともに学校内外の物的・人的資源を最大限に生かし、児童一人一人の確かな成長を図る学校づくりを進める。その理念と目指す学校像を次のように設定し、教育活動の充実につなげる。

理念

- ・安心と楽しさのある学校づくり
- ・ともに伸びる学校づくり
- ・家庭や地域から愛される学校づくり



学校像

- ・確かな学力を育む学校
- ・豊かな心を育む学校
- ・健康な身体を育み安全な学校

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- (1) すべての児童の人権を大切にし、児童が教育活動の中で自分のよさや個性を発揮し自己肯定感や自己有用感を感じることができる学校づくりに努める。
- (2) ○小中一貫としての義務教育9年間を通じた系統的な指導を通して、確かな学力の向上を目指し、基礎・基本の確実な定着と「楽しく・わかる・できる授業」づくりに努める。
- (3) 自他の生命を尊重し、児童一人一人が生き生きと安心して学校生活を送る中で、児童が自ら健康や体力等の増進に取り組む学校づくりに努める。
- (4) 学校課題研修や教師の自己研鑽に基づいた校内研修を充実させ、教職員個々の指導力及び資質の向上を図るとともに、一人一人の能力や特性を生かしながら、児童とともに伸びる学校づくりに努める。
- (5) ○「地域とともにある学校」、「地域の学校」として学校・家庭・地域社会が互いに連携し、信頼関係を深めながら地域の教育力を高めるとともに、陽南地域学校園および小中一貫教育の積極的な取組により学校力の向上を図る。
- (6) 学校・家庭・地域社会が一体となり教育活動の充実を図るとともに、積極的に情報を発信する開かれた学校づくりに努める。
- (7) 働き方改革を意識した教職員の労働時間の把握と勤務内容の適正化・効率化を進める。

【陽南地域学校園教育ビジョン】 主体的に活動できる子供を育む小中一貫教育
～生きる力の基本となる知識・技能とコミュニケーション能力の育成～

4 教育課程編成の方針

- ・教育基本法・学校教育法・同施行規則の規定ならびに小学校学習指導要領、県教育委員会の指導指針、宇都宮市教育委員会の「第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画」を受け、うつのみやの目指す学校教育・第2次宇都宮市学校教育スタンダードおよび本校の学校教育目標を達成させるための学校経営方針に基づいた教育課程を編成する。
- ・学校教育目標の具現化を図るため、本校の実情、児童の心身の発達段階や特性、地域社会の要望、保護者の願い、更には小中一貫教育の実施を受けて、知・徳・体の調和のとれた、人間力を育む教育の推進を図ることができるよう編成する。
- ・「生きる力」を育成するために創意と工夫を加え、各教科・道徳・外国語活動・総合的な学習の時間および特別活動等の各領域との関連を図り、教科横断的な視点に立った資質・能力の育成に向けて、調和と統一の取れた教育課程を編成する。

5 今年度の重点目標（短期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

- (1) 学校運営
 - ・学校経営のビジョンを教職員で共通理解し、協働して取り組む体制づくりを進める。
 - 学校と家庭・地域の双方向的な関係を築き、学校内外の教育的資源の有効活用を図る。
 - 陽南地域学校園および小中一貫教育の積極的な取組により学校力の向上を図る。
- (2) 学習指導
 - 自分の思いを豊かに表現し、主体的に学び合う児童の育成を図る。
- (3) 児童生徒指導
 - 基本的な生活習慣を身に付け、場に応じて適切に判断し、自主的に行動できる児童を育成する。
- (4) 健康（保健安全・食育）・体力
 - 自ら進んで心と体の健康づくりに取り組む児童の育成を図る。

6 自己評価 A1～A20は市共通評価指標 B1～は学校評価指標(小・中学校共通, 地域学校園共通を含む)

※「主な具体的な取組の方向性」には, A拡充 B継続 C縮小・廃止, を自己評価時に記入

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は, 文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画基本施策	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価						
1- (1) 確かな学力を育む教育の推進	<p>A 1 児童は, 他者と協力したり, 必要な情報を集めたりして考えるなど, 主体的に学習に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】全体アンケート「児童は, 学習課題を解決するために, 友達と話し合ったり, 必要な情報を集めたりしながら, じっくり考え, 進んで学習に取り組んでいる。」における肯定的回答 ⇒児童 80%以上 ⇒教職員 80%以上</p>	<p>① ペア学習やグループ学習など学習形態を工夫し, 児童同士が自分の思いや考えを伸び伸びと表現し, 伝え合えるようにする。</p> <p>② 児童が一人一台端末を活用し, 必要な情報を得る力を育成できるように, ICT支援員と協力しながら指導に努める。</p> <p>③ 児童が見通しをもって主体的に取り組めるような授業展開の工夫や, 児童の興味を引き, 思考・判断・表現等を促す課題設定の工夫などに努める。</p>	B	<p>【達成状況】</p> <table border="1" data-bbox="1066 405 1481 477"> <tr> <td>児童の肯定的回答率</td> <td>89.7%</td> </tr> <tr> <td>教職員の肯定的回答率</td> <td>89.3%</td> </tr> </table> <p>・児童・教職員の肯定的回答率は, ともに指標を上回っている。市全体と比較すると児童ではやや下回り, 教職員は6ポイントほど低くなっている。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>・引き続き, ①②③の取組を行い, 「陽南学習のきまり」を基に基本的な学習習慣を身に付けさせた上で, 学び合いの場を設け, 主体的な学びができるよう働き掛ける。また, 一人一台端末を活用し, 情報収集能力を高めるための指導をしていく。</p>	児童の肯定的回答率	89.7%	教職員の肯定的回答率	89.3%		
児童の肯定的回答率	89.7%									
教職員の肯定的回答率	89.3%									
1- (2) 豊かな心を育む教育の推進	<p>A 2 児童は, 思いやりの心をもっている。</p> <p>【数値指標】全体アンケート「児童は, 誰に対しても, 思いやりの心をもって優しく接している。」における肯定的回答 ⇒児童 95%以上 ⇒教職員 95%以上 ⇒保護者 95%以上</p>	<p>① 道徳科の授業と, 全教育活動との関連を図り, 生命や人権を尊重する心や, 人を思いやる心など豊かな心情を育む。</p> <p>② 児童会活動や清掃等における異年齢交流活動を通して, 相手の立場を考えて思いやる心を育む。 ・ボランティア感謝の会</p> <p>③ 全クラス「きらりコーナー」を活用し, 学年間を超えてカードを記入したり, 帰りの会で「今日のきらり」を設けたりして, 友達のよさを認め合えるようにする。</p>	B	<p>【達成状況】</p> <table border="1" data-bbox="1066 904 1481 1010"> <tr> <td>児童の肯定的回答率</td> <td>86.7%</td> </tr> <tr> <td>教職員の肯定的回答率</td> <td>96.4%</td> </tr> <tr> <td>保護者の肯定的回答率</td> <td>92.0%</td> </tr> </table> <p>・教職員の肯定的回答率は, 指標を1.4ポイント上回ったが, 児童と保護者の肯定的回答率は, それぞれ8.3ポイント, 3ポイント指標を下回った。学校生活の様々な場面で, 思いやりのある行動の啓発, 推進に努める必要がある。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>・引き続き①②③を行い, 教職員は思いやりの心をもって優しく接している児童の行動を認め, 紹介し, 思いやりの心を広げ推進するよう努める。</p>	児童の肯定的回答率	86.7%	教職員の肯定的回答率	96.4%	保護者の肯定的回答率	92.0%
児童の肯定的回答率	86.7%									
教職員の肯定的回答率	96.4%									
保護者の肯定的回答率	92.0%									
	<p>A 3 児童は, 目標に向かってあきらめずに, 粘り強く取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】全体アンケート「私は, 夢や目標に向かって, あきらめずに, 粘り強く取り組んでいる。」における肯定的回答 ⇒児童 80%以上 ⇒教職員 80%以上 ⇒保護者 80%以上</p>	<p>① 児童が主体的に活動したり, 活躍したりできる場を数多く設定するとともに, 認め励ます指導を心がけ, 児童の自己有用感を高めていく。</p> <p>② 学校行事や各教科の授業, 各種検定等において, 児童が目標をもって取り組む機会を設けるとともに, 目標の達成に向けて努力している児童を称賛したり, 頑張っている様子を保護者に伝えたりする。</p> <p>③ 道徳の授業において, 目標をもって粘り強く取り組むことの大切さに気付かせるとともに, そうした実践に向けた意欲を高める。</p>	B	<p>【達成状況】</p> <table border="1" data-bbox="1066 1458 1481 1563"> <tr> <td>児童の肯定的回答率</td> <td>86.7%</td> </tr> <tr> <td>教職員の肯定的回答率</td> <td>89.3%</td> </tr> <tr> <td>保護者の肯定的回答率</td> <td>75.1%</td> </tr> </table> <p>・児童と教職員の肯定的回答率は, それぞれ指標を6.7ポイント, 9.3ポイント上回ったが, 保護者の肯定的回答率は指標を4.9ポイント下回った。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>・引き続き①②③の取組を行うとともに, 保護者には, 学校公開日等の授業を参観する機会を通して, 児童の姿から粘り強く取り組む様子を伝えられるようにする。</p>	児童の肯定的回答率	86.7%	教職員の肯定的回答率	89.3%	保護者の肯定的回答率	75.1%
児童の肯定的回答率	86.7%									
教職員の肯定的回答率	89.3%									
保護者の肯定的回答率	75.1%									

<p>1- (3) 健康で安全な生活を 実現する力を 育む教育の 推進</p>	<p>A 4 児童は、健康や安全に 気を付けて生活してい る。</p> <p>【数値指標】全体アンケート 「児童は、健康や安全に気を 付けて生活している。」 における肯定的回答 ⇒児童 90%以上 ⇒教職員 85%以上 ⇒保護者 85%以上</p>	<p>① 安全に行動できる資質や能力を 育成するために、より具体的・実践 的な取組をしていく。特に自転車の 乗り方に関しては繰り返し指導す る。指導に当たっては、市や警察な どの関係機関等と連携し、安全に対 する意識の向上を図る。</p> <p>② 感染症を予防するために、手洗 いがい、規則正しい生活など免疫力 を高める行動がとれるように指導 するとともに、学校生活全般におい て健康観察を実施する。</p> <p>③ 健全な食生活を実践できる能力 を育成するため、授業や給食指導に おいて、バランスの良い食事、食事 のマナー、朝食の重要性について指 導し、向上を図る。また地域学校園 で「食育ファイル」や「お弁当の日」 「マナー週間」など共通の取組を実 施して連携を図り、実践に向けて意 欲を高める。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1"> <tr> <td>児童の肯定的回答率</td> <td>92.5%</td> </tr> <tr> <td>教職員の肯定的回答率</td> <td>82.3%</td> </tr> <tr> <td>保護者の肯定的回答率</td> <td>85.4%</td> </tr> </table> <p>・児童・教職員の肯定的回答率は、とも に指標を上回っている。保健委員会に よるお昼の放送などの衛生啓発活動 が効果的であったと考えられる。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>・保健委員会の活動を引き続き行う。 ・全児童が健康や安全について意識し、 廊下の歩行の仕方や給食前の手洗い、 ハンカチの携帯等の基本的な生活習慣を 身に付けられるように繰り返し指導す る。</p>	児童の肯定的回答率	92.5%	教職員の肯定的回答率	82.3%	保護者の肯定的回答率	85.4%
児童の肯定的回答率	92.5%								
教職員の肯定的回答率	82.3%								
保護者の肯定的回答率	85.4%								
<p>1- (4) 将来への希 望と協働す る力を育む 教育の推進</p>	<p>A 5 児童は、自分のよさや 成長を実感し、協力して 生活をよりよくしようと している。</p> <p>【数値指標】全体アンケート 「私は、自分のよさを生かし たり、友達と協力したりして、 生活をよりよくしようとして いる。」 における肯定的回答 ・児童 90%以上</p>	<p>① 毎日、帰りの会や「きらりコー ナー」で、児童が互いに認め合う 場を設けるとともに、担任も認め 励ます指導に努める。</p> <p>② 授業や学校行事、体験活動の振 り返りを重視し、児童が発揮した よさや頑張りを自覚できるような 自己評価、相互評価を工夫する。</p> <p>③ Q-Uや教育相談を生かして、 児童理解を深めたり、見取ったよ さを家庭に伝えるよう努めたりし て、学校と家庭が歩調を合わせな がら、児童の自己有用感を高めら れるようにする。</p> <p>④ キャリアパスポートの保護者の 欄や、食育ファイルにつづるお弁 当の日の振り返り、家読の振り返 りの保護者からコメントでは、児 童のよさを認める文章を児童向け に書いてもらうことで、さらに自 信がもてる児童を育てる。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1"> <tr> <td>児童の肯定的回答率</td> <td>87.2%</td> </tr> </table> <p>・児童の肯定的回答率は、指標を2.8ポ イント下回った。さらに多くの児童 が、自分のよさに気づき自己の成長を 実感するとともに、友達と協力してよ りよい生活を築いていこうとする気 持ちがもてるよう支援していきたい。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>・「きらりコーナー」を充実させたり、 日常の授業等で児童が互いに認め合 う場を増やしたりして、児童が自分 のよさに気付く機会の拡充に努める。 ・教職員は、学校生活の様々な場面にお いて、児童を認め励ます機会を意識 的に設けるよう努める。 ・学級での係活動や委員会活動、学年・ 学校行事等の実施課程において、個々 の児童が活躍できる場を設定し、そ れぞれの児童が全体の活動に貢献し ているという実感をもたせるよう努 める。</p>	児童の肯定的回答率	87.2%				
児童の肯定的回答率	87.2%								
<p>2- (1) グローバル 社会に主体 的に向き合 い、郷土愛 を醸成する 教育の推進</p>	<p>A 6 児童は、英語を使って コミュニケーションして いる。</p> <p>【数値指標】全体アンケート 「児童は、外国語活動（英語） の授業やALTとの交流の際 に、英語を使ってコミュニケ ーションしている。」 における肯定的回答 ⇒児童 90%以上 ⇒教職員 95%以上</p>	<p>① ALTと担任とのTTで、効果的 な外国語活動の展開を図る。</p> <p>② 外国語活動を通じて、言語や文化 について体験的に理解を深めたり、 昼休みにALTと英語での対話を 楽しむ時間を設けたりして、英語で のコミュニケーションに親しもう とする態度を育成する。</p> <p>③ 外国語活動に関する校内研修や 授業を相互に見合う機会を充実し て指導力の向上を図る。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1"> <tr> <td>児童の肯定的回答率</td> <td>83.9%</td> </tr> <tr> <td>教職員の肯定的回答率</td> <td>100%</td> </tr> </table> <p>・児童の肯定的回答率は指標を下回っ たが、教職員の肯定的回答率は100% で、指標を5ポイント上回った。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>・授業中にコミュニケーションをとって いるが、自信のない児童が多いと思わ れるので、昼休みのALTとの英会話 タイムを活用するよう勧めていく。</p>	児童の肯定的回答率	83.9%	教職員の肯定的回答率	100%		
児童の肯定的回答率	83.9%								
教職員の肯定的回答率	100%								

	<p>A7 児童は、宇都宮の良さを知っている。</p> <p>【数値指標】全体アンケート「私は、宇都宮の良さを知っている。」における肯定的回答 ⇒児童 85%以上</p>	<p>① 生活科、社会科、総合的な学習の時間（宇都宮学）の授業や、市内や地域での校外学習等において、学習内容に関連させながら児童が身近な地域や宇都宮市のよさに気付く指導に努める。</p> <p>② 出前授業等を活用して宇都宮市の歴史、文化、伝統産業、特産物等について理解を深めるとともに、教師自身も宇都宮のよさを学び、児童に伝えるよう努める。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1"> <tr> <td>児童の肯定的回答率</td> <td>88.3%</td> </tr> </table> <p>・児童の肯定的回答率は、指標を上回った。市全体と比較してもやや上回っている。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>・①②の取組を今後も続けるとともに、日頃から具体的に宇都宮のよさについて児童に伝えるようにする。また、家庭でも、身近な宇都宮の施設等に触れる機会を設けるよう働き掛ける。</p>	児童の肯定的回答率	88.3%		
児童の肯定的回答率	88.3%						
<p>2- (2) 情報社会と科学技術の進展に対応した教育の推進</p>	<p>A8 児童は、デジタル機器や図書等を学習に活用している。</p> <p>【数値指標】全体アンケート「児童は、デジタル機器や図書等を学習に活用している。」における肯定的回答 ⇒児童 90%以上 ⇒教職員 90%以上</p>	<p>① 積極的にデジタル機器を活用する時間を設け、児童がコンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段に親しみ、適切に活用する能力を育成できるようにする。</p> <p>② 各学年のその時期の授業内容との関連に配慮した教育図書の整備充実等、学校図書館の環境整備に努める。</p> <p>③ デジタル機器や図書資料を用いて課題を解決したり、まとめたりする喜びを味わわせる。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1"> <tr> <td>児童の肯定的回答率</td> <td>89.2%</td> </tr> <tr> <td>教職員の肯定的回答率</td> <td>96.4%</td> </tr> </table> <p>・児童の肯定的回答率は指標を下回っている。デジタル教材に対する教員の認識と児童の認識の違いが見られることが原因だと考えられる。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>・タブレットの活用場面を増やすためにどの単元においても1回はタブレットを活用した授業を行う。</p>	児童の肯定的回答率	89.2%	教職員の肯定的回答率	96.4%
児童の肯定的回答率	89.2%						
教職員の肯定的回答率	96.4%						
<p>2- (3) 持続可能な社会の実現に向けた担い手を育む教育の推進</p>	<p>A9 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。</p> <p>【数値指標】全体アンケート「児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。」における肯定的回答 ⇒児童 85%以上 ⇒教職員 80%以上</p>	<p>① 社会科や総合的な学習の時間における環境教育やみやエコスクール等を通して、SDGSや環境問題への関心を高め、児童一人一人の環境に対する関心や理解を深め、環境を大切に作る行動が取れるようにする。</p> <p>・わたしたちの暮らしと環境（5年）</p> <p>② 紙のリサイクルを環境委員会の活動ですすめる。</p> <p>③ 持続可能な食を支える食育の推進として食品ロスや地産地消の取組、伝統的な食文化の継承について啓発していく。</p> <p>④ 人権教育年間指導計画に基づき、全教育活動を通して人権教育（特に生命尊重）を計画的に実施する。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1"> <tr> <td>児童の肯定的回答率</td> <td>88.9%</td> </tr> <tr> <td>教職員の肯定的回答率</td> <td>75.0%</td> </tr> </table> <p>・教職員の肯定的回答率は指標をやや下回ったが、児童の肯定的回答率は指標を上回っている。今年度から牛乳パック回収などを行ったことで、児童の関心が高まったと考えられる。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>・各教室にプラスチック用のごみ箱を新たに設置し、ごみの分別をきちんとできるようにすることで、資源ごみへの関心を高める。</p>	児童の肯定的回答率	88.9%	教職員の肯定的回答率	75.0%
児童の肯定的回答率	88.9%						
教職員の肯定的回答率	75.0%						
<p>3- (1) インクルーシブ教育システムの充実に向けた特別支援教育の推進</p>	<p>A10 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。</p> <p>【数値指標】全体アンケート「教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。」における肯定的回答 ⇒教職員 100%以上</p>	<p>① 年3回、要配慮児童の情報交換会を開き、配慮が必要な児童について全職員で共通理解を図り、かがやきルーム指導員や言語障害通級指導教室指導員等の校内資源を活用し、全校体制で支援していく。</p> <p>② 個別の支援計画を策定し、一人一人のニーズを正確に把握し、一貫した適切な支援を行う。</p> <p>③ 特別支援学級においては、支援員と協同して効果的なTT指導を実施し、一人一人により丁寧で細やかな指導を行う。</p> <p>④ 必要に応じて対象児童に関わりのある教職員でケース会議を開き、情報を共有し、支援方法を検討する。</p> <p>⑤ SCMのコーディネートにより、SCが専門的観点から、本人や保護者に支援を行うとともに、担任へも効果的な助言ができるようにする。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1"> <tr> <td>教職員の肯定的回答率</td> <td>100%</td> </tr> </table> <p>・指標と同等の肯定的回答が得られた。児童一人一人のニーズに合った支援や学びの場の提供ができたためと思われる。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>・個別の支援計画を策定し、「成長を確かめるための評価」や「支援内容の振り返り」として活用し、それを次年度に引き継ぐことにより、継続した支援を実現したい。</p> <p>・必要に応じてケース会議を開き、一人一人のニーズを受け止め、共通理解を図るとともに、具体的な支援方法や役割分担を明確にする。場合によっては学びの場の検討を行い、適切な学習環境でそれぞれのニーズに応じた支援が実践できるよう努める。</p>	教職員の肯定的回答率	100%		
教職員の肯定的回答率	100%						

3-(2)
いじめ・不登校対策の充実

A11 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。

【数値指標】全体アンケート「先生方は、いじめが許されないことを熱心に指導してくれる。」における肯定的回答
⇒児童 100%以上

- ① 人権週間、いじめゼロ月間、いじめゼロ集会等を通して、互いを思いやることの大切さを理解し自分たちの生活をよりよいものにしていくという意欲を高める。
- ② 教育相談やアンケート調査を通して、「いじめ」や「いじめにつながる行動」の早期発見に努めるとともに、いじめが疑われる事案が把握された場合は、いじめ防止対策委員会を開催し関係教職員が組織的に連携し、家庭の協力も得ながら解決していく。
- ③ 「学校生活アンケート」を5月・9月・12月・2月に実施し、いじめを抑止するとともに把握した実態を懇談会や学年だより等で保護者に周知し家庭の理解を得ながら、児童にいじめが許されない行為であるという意識を定着させる。
- ④ 学年だよりの「にっこり広場～いじめゼロの楽しい学校を目指して」のコーナーで教育活動の様子を発信する。
- ⑤ いじめ防止に関する道徳の授業を全学級で行い、懇談会で説明する。

B

【達成状況】

児童の肯定的回答率	96.4%
-----------	-------

・児童の肯定的回答率は、指標を3.6ポイント下回った。いじめは絶対にしてはいけないということを行事や道徳などをはじめとする学校生活の中で児童に伝え続けていくことが大切である。

【次年度の方針】

・教職員が「いじめは絶対にダメ」という姿勢を常にもって指導に当たる。また、人権週間やいじめゼロ月間の取組やいじめアンケートによる実態把握などにより、いじめを未然に防ぎ、いじめは許されない行為であるという意識をしっかりと定着させる。
・学年だよりへの「にっこり広場」の掲載や公開授業時に道徳の授業実践をすることで保護者・地域への発信も継続して推進していく。

A12 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。

【数値指標】全体アンケート「先生方は、一人一人を大切に、児童がともに認め励まし合うクラスをつくってくれている。」における肯定的回答
⇒児童 100%以上
⇒保護者 95%以上

- ① 児童の自己肯定感を高められるよう、児童相互に認め合う場を数多く設けるとともに、担任も認め励ます指導に努める。
- ② 教育相談、アンケート、Q-U調査等の結果を活用し不適応傾向のある児童の早期発見と不登校の兆候や傾向のある児童に係る校内全体の情報共有を図る。
- ③ いじめ・不登校の早期発見・早期対応・解決に向けて、欠席状況共有シートを活用したり、児童指導情報交換会・学年会・ブロック会で情報を交換したりする。また、学校の取組だけで改善することが困難な家庭環境が背景にあると思われる不登校については、関係機関（市教育センター・民生委員・主任児童委員・児童相談所・市役所子ども家庭課）と連携をするとともに、各担当からも働きかけを行うようにして、改善を図る。
- ④ 全クラス「きらりコーナー」、帰りの会での「今日のきらり」を設け、友達のよさを認め合えるようにする。

B

【達成状況】

児童の肯定的回答率	97.2%
保護者の肯定的回答率	91.4%

・児童・保護者の肯定的回答率は、それぞれ指標を2.8ポイント、3.6ポイント下回ったが、昨年度よりやや向上した。コロナ禍で実施できなかった児童会活動、縦割り班活動、授業参観等が再開し、児童が自己肯定感の高まりを実感したり、児童が共に認め合い励まし合う姿を保護者が見たり感じたりする機会が増えたためと思われる。

【次年度の方針】

・「きらりコーナー」や帰りの会での「今日のきらり」以外にも、係活動や特別活動、日々の授業の中で、児童が相互に認め合う場を増やしていく。
・一人一人の様子を細やかに見取り、認め励ます指導に努め、児童が自分のよさに気付くよう支援し、自己肯定感を高めたい。
・関係機関と連携し、不登校傾向の児童や保護者の困り感に寄り添い、小まめに関わりをもちながら根気強く支援を継続し、登校状況の改善に努めたい。

3-(3)
外国人児童生徒等への適応支援の充実

A13 学校は、一人一人が大切にされ、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。

- ① 児童一人一人が所属感と安定感をもった居がいのある学級作りに向けて、Q-U検査やアンケート・日常の交友関係の観察により、児童

【達成状況】

児童の肯定的回答率	97.5%
教職員の肯定的回答率	100%
保護者の肯定的回答率	89.0%

<p>3-(4) 多様な教育的ニーズへの対応の強化</p>	<p>【数値指標】全体アンケート「教職員は、児童の悩みに寄り添い、相談に乗ったり、問題の解決に努めたりして、児童が明るくいいきいきと学校生活を送れるようにしている。」における肯定的回答 ⇒児童 90%以上 ⇒教職員 90%以上 ⇒保護者 90%以上</p>	<p>の実態を把握し、問題の早期発見に努める。また、問題があるときは学年間または学校全体で連携を図りながら、すぐに対策を講じる。 ② 授業や学校生活の様々な場面を通して、教職員が児童のよさや努力を認め励ます指導を行う。 ③ 児童会活動において、児童の主体的な活動を重視するとともに、異学年交流を活発に行い、児童が活躍する場を広げる。 ④ 学級・学校での取組をホームページや便り等で積極的に保護者に向けて発信していく。</p>	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童・教職員の肯定的回答率は、共に指標を上回っているが、保護者の肯定的回答率は1.0ポイント下回っている。保護者と情報を共有することに努める必要がある。 【次年度の方針】 引き続き、日常の様子や各種アンケートを参考に児童の実態把握に努め、問題発生時には学校全体で連携を図り、早期発見・早期支援に努める。 週1回の全体での情報交換も継続して行い、連携して対応できるようにしていく。 保護者とも連絡を密に取り、情報を共有していくようにする。授業参観やオープンスクールの機会を有効に活用したり、保護者に教育活動を公開できる場を積極的に設けたりし、学校生活の様子を伝えていく。 				
<p>4-(1) 教職員の資質・能力の向上</p>	<p>A14 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。</p> <p>【数値指標】全体アンケート「先生方の授業は分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる。」における肯定的回答 ⇒児童 90%以上 ⇒保護者 90%以上</p> <p>※R4年度のA18と同じ</p>	<p>① 十分な教材研究のもと、本時のめあてを明確にするとともに、児童の理解度に合わせた作業用紙やヒントカード・ヒントコーナー・教材教具を準備し分かる授業に努める。 ② 授業の中で児童の意見を取り上げ、認め励ますなどして生かすことで、自信をもって自分の考えを表現したり伝え合ったりすることができる児童の育成を図る。 ③ 学力向上担当との連携を図った習熟度別学習やコース別学習を行ったり、単元によって学習体制を替えたりするなど、学習形態や場の設定を工夫し、児童の理解が深められるようにする。 ④ 計画的・構造的な板書を工夫し、児童が課題の確認や共有、焦点化が図れるようにするとともに振り返りの場面で活用できるようにする。 ⑤ 「聞き方・話し方のきまり」を掲示し意識づけを図るとともに、それらを活用し、伝え合う力の育成を図る。 ⑥ 一人一台端末を活用し、効果的に教科指導に役立てる。 ⑦ 児童が授業に取り組む様子を、ホームページ等で保護者に発信する。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】</p> <table border="1" data-bbox="1061 770 1485 842"> <tr> <td>児童の肯定的回答率</td> <td>98.1%</td> </tr> <tr> <td>保護者の肯定的回答率</td> <td>89.2%</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> 保護者の肯定的回答率は指標をやや下回ったが、児童の肯定的回答率は、指標を8.1ポイント上回った。教職員が日々の授業の中で左記の具体的な取組を実施し、個に応じたきめ細かな指導に努めた結果と思われる。 【次年度の方針】 引き続き①～⑥の取組を続けるとともに、保護者に対しては、引き続きホームページ等で授業の様子を伝え、積極的に情報発信していく。 児童に対しては、配慮の必要な児童が増えている現状を踏まえ、ユニバーサルデザインの視点を意識しながら、授業づくりを行っていく。 	児童の肯定的回答率	98.1%	保護者の肯定的回答率	89.2%
児童の肯定的回答率	98.1%						
保護者の肯定的回答率	89.2%						
<p>4-(2) チーム力の向上</p>	<p>A15 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】全体アンケート「学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。」における肯定的回答 ⇒教職員 90%以上</p>	<p>① 学校の諸課題への対応や、学校行事の準備・運営等に、教職員が相互に助け合いながら組織的に取り組むよう努める。 ② 校内評価等をもとに、円滑な学校運営が行われるよう校務分掌の業務の見直しを図るとともに、役割を分担し、協力して業務に取り組めるよう努める。 ③ 各々の教職員の得意分野や持ち味が生きる組織運営に努めるとともに、全教職員が互いに助け合い支え合う協働の意識をもって業務に取り組む。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】</p> <table border="1" data-bbox="1061 1673 1485 1704"> <tr> <td>教職員の肯定的回答率</td> <td>96.4%</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> 教職員の肯定的回答率が指標を6.4ポイント上回った。全職員が協力し、役割を分担して円滑に業務に取り組んだことにより、児童も落ち着いて生活できていることが伺える。 【次年度の方針】 引き続き、互いに助け合いながら組織的に業務に取り組んでいくとともに、それぞれの得意分野が生かされたり、協働意識が高まったりするような編成や運営を進めていく。 	教職員の肯定的回答率	96.4%		
教職員の肯定的回答率	96.4%						

<p>4-(3) 学校における働き方改革の推進</p>	<p>A16 勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】全体アンケート「私は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。」 における肯定的回答 ⇒教職員 85%以上</p>	<p>① 学校の働き方改革を念頭に、勤務時間を意識し、業務の効率的な実施や計画的な処理に努める。</p> <p>② 教職員の負担軽減に向け、各種行事等スリム化を図る。</p> <p>③ 学習情報システムやICTを効果的に活用し、業務の効率化を図る。</p> <p>④ 学習指導に関して、教材等のデータを蓄積し、共有して活用できるようにしていくことで、さらに効率化を図る。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1"> <tr> <td>教職員の肯定的回答率</td> <td>78.6%</td> </tr> </table> <p>・教職員の肯定的回答率が、指標を7ポイント程度下回っている。行事や学習活動等がコロナ禍以前に戻る過渡期となったことで、立案や準備に時間がかかるとともに、学級数・職員数の減少により、個人の業務量が増えたことが影響していると考えられる。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>・引き続き効率化を考えた意識改革や行事のスリム化、ICTの活用等を進め、業務の改善・負担軽減に努めていく。また、学習指導に関しては、教材等のデータを蓄積し、共有して活用できるようにしていくことで、さらに効率化を図っていく。</p> <p>・リフレッシュデーを有効に活用する。</p>	教職員の肯定的回答率	78.6%						
教職員の肯定的回答率	78.6%										
<p>5-(1) 全市的な学校運営・教育活動の充実</p>	<p>A17 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。</p> <p>【数値指標】全体アンケート「学校は、小学校と中学校が連携した「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。」 における肯定的回答 ⇒児童 80%以上 ⇒教職員 80%以上 ⇒保護者 80%以上</p>	<p>① 小中一貫教育のカリキュラムを充実させる。(9年間を見通した年間指導計画の作成・見直し)</p> <p>② 小中乗り入れ授業を実施し地域学校園の小中の交流を促進する。</p> <p>③ 「あいさつ運動」や「ひまわりプロジェクト」など地域学校園での取組について各小学校の児童会と陽南中学生徒会がオンラインで話し合うなど交流を図り、活動の充実を目指す。</p> <p>④ 宮っ子チャレンジ(宮チャレ)の活動を通して、小中学生の交流を図る。</p> <p>⑤ 取組について、内容や趣旨を児童や保護者にも説明し、地域学校園全体として行っている取組であることを周知する。また、取組の様子や成果などについて、ホームページや校内の掲示等を活用して、積極的に発信していく。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1"> <tr> <td>児童の肯定的回答率</td> <td>88.8%</td> </tr> <tr> <td>教職員の肯定的回答率</td> <td>89.3%</td> </tr> <tr> <td>保護者の肯定的回答率</td> <td>77.2%</td> </tr> <tr> <td>地域住民の肯定的回答率</td> <td>94.1%</td> </tr> </table> <p>・児童・教職員・地域住民の肯定的回答が指標を上回っている。児童に関しては、昨年度より10.9ポイント上回っている。また保護者の肯定的回答率は指標は下回ったが、昨年度より1.8ポイント増加した。取組の内容や趣旨について説明をした上で、各活動を行った結果であるといえる。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>・地域学校園として行っている取組について、さらに、ホームページや校内の掲示等を活用して、児童や保護者にも周知していく。また、各活動の前にさくら連絡網を活用して小中一貫の取組であることを周知する。さらに、運営委員会による校内放送なども活用し、地域学校園での取組について児童に発信していく。</p>	児童の肯定的回答率	88.8%	教職員の肯定的回答率	89.3%	保護者の肯定的回答率	77.2%	地域住民の肯定的回答率	94.1%
児童の肯定的回答率	88.8%										
教職員の肯定的回答率	89.3%										
保護者の肯定的回答率	77.2%										
地域住民の肯定的回答率	94.1%										
<p>5-(2) 主体性と独自性を生かした学校経営の推進</p>	<p>A18 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充</p>	<p>① P T Aによる水曜日下校時の立哨・みまもり隊、地域の方々による青色パトロール隊等に協力を依頼</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1"> <tr> <td>児童の肯定的回答率</td> <td>94.2%</td> </tr> <tr> <td>教職員の肯定的回答率</td> <td>100%</td> </tr> </table>	児童の肯定的回答率	94.2%	教職員の肯定的回答率	100%				
児童の肯定的回答率	94.2%										
教職員の肯定的回答率	100%										

<p>5-(3) 地域と連携・協働した学校づくりの推進</p>	<p>実を図っている。</p> <p>【数値指標】全体アンケート「学校は、家庭・地域・企業と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。」</p> <p>における肯定的回答 ⇒児童 90%以上 ⇒教職員 90%以上 ⇒保護者 90%以上 ⇒地域住民 90%以上</p>	<p>するとともに、教職員が登下校指導を実施し、登下校時における児童の安全確保に努める。</p> <p>② 地域協議会の組織を有効活用し、地域学校協働活動推進員を中心に、学校を支援するボランティアを募り、学校・家庭・地域との連携、協力を深めるとともに児童の教育・安全の充実を図る。</p> <p>③ 「人とのふれ合い活動」を積極的に推進し、地域の教育的資源（地区市民センター・独居老人・幼稚園・保育園）を活用して、コミュニケーション能力の育成や相手を思いやる心・助け合う心の育成に努める。</p> <p>④ さらに充実した教育活動の実施を目指し、地域の人材や物的教材などの開発に努める。</p> <p>⑤ 企業等の出前授業など、外部講師を積極的に活用することで、学習や体験的な活動の充実を図る。</p>	<p>B</p> <table border="1" data-bbox="1054 114 1495 185"> <tr> <td>保護者の肯定的回答率</td> <td>88.1%</td> </tr> <tr> <td>地域住民の肯定的回答率</td> <td>92.9%</td> </tr> </table> <p>・児童・教職員・地域住民の肯定的回答が指標を上回っている。保護者の肯定的回答率は指標を1.9ポイント下回っているが、実際には、家庭や地域、関係機関、企業等と連携・協力して行っている活動が多数あるため、取組について周知していく必要がある。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>・取組の様子や成果などについて、ホームページや校内の掲示等を活用して、積極的に発信していく。また、地域や企業と行っている教育活動（出前授業等）について、保護者に公開していく。</p>	保護者の肯定的回答率	88.1%	地域住民の肯定的回答率	92.9%
保護者の肯定的回答率	88.1%						
地域住民の肯定的回答率	92.9%						
<p>6-(1) 安全で快適な学校施設整備の推進</p>	<p>A19 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。</p> <p>【数値指標】全体アンケート「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。」</p> <p>における肯定的回答 ⇒教職員 95%以上 ⇒保護者 90%以上</p>	<p>① 管理職による施設・設備の常時点検と、月1回のチェック項目に基づく全職員での安全点検を実施し、危険箇所については迅速な改善や修繕に努めるとともに、教職員や児童に周知し、万全を図る。</p> <p>② 危機管理マニュアルを見直すとともに、避難訓練や引き渡し訓練等を通して、火事、地震、竜巻、不審者侵入等の不測の事態への備えを万全にする。</p> <p>③ 熱中症予防対策、インフルエンザ蔓延予防対策など、時期に応じた保健指導管理および環境衛生管理に努める。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】</p> <table border="1" data-bbox="1054 831 1495 902"> <tr> <td>教職員の肯定的回答率</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>保護者の肯定的回答率</td> <td>90.9%</td> </tr> </table> <p>・教職員・保護者ともに肯定的回答率が指標を上回った。月1回の安全点検を行っていることと、修繕箇所は学校業務員が迅速に対応していることが要因だと考えられる。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>・施設・設備の定期点検と、月1回の安全点検を実施するとともに、危険箇所は早期に修繕するなど、安全な環境づくりに十分配慮していく。また、危険箇所や修理箇所は、教職員や児童に周知し、万全を図る。</p> <p>・感染症の蔓延状況や高温の環境等の現状を的確に把握し、状況に応じた環境衛生管理に努めていく。</p>	教職員の肯定的回答率	100%	保護者の肯定的回答率	90.9%
教職員の肯定的回答率	100%						
保護者の肯定的回答率	90.9%						
<p>6-(2) 学校のデジタル化推進</p>	<p>A20 コンピュータなどのデジタル機器やネットワークの点から、授業（授業準備も含む）を行うための準備ができています。</p> <p>【数値指標】全体アンケート「私は、授業（授業準備を含む）や業務に、デジタルを積極的に活用している。」</p> <p>における肯定的回答 ⇒教職員 95%以上</p>	<p>① 児童の学習への関心を高めたり理解を深めたりすることができるよう、授業の中で、一人一台端末等のデジタル機器を効果的に活用するよう努める。</p> <p>② スクールタクト等を利用し、効率的に児童の成績を評価することができるようにする。</p> <p>③ 児童指導においても、校務支援システム等のデジタル機器を積極的に活用し、日々の記録や指導に生かすことができるようにする。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】</p> <table border="1" data-bbox="1054 1440 1495 1476"> <tr> <td>教職員の肯定的回答率</td> <td>92.9%</td> </tr> </table> <p>・教職員の肯定的回答率は指標をやや下回った。教職員間でのクロームブックの使用頻度の差などが原因だと考えられる。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>・教職員間でのクロームブックの使用頻度の差を埋めるために、ICT活用研修を行い技術向上に努める。</p> <p>・継続してICT支援員を活用し、教職員のデジタル機器への知識の向上を図るとともに、授業でも支援してもらえ環境を整える。</p>	教職員の肯定的回答率	92.9%		
教職員の肯定的回答率	92.9%						

小・中学校、地域学校共通、本校の特色・課題等

B1 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。

【数値指標】全体アンケート「児童は、時と場に応じたあいさつをしている。」における肯定的回答
 ⇒児童 95%以上
 ⇒教職員 95%以上
 ⇒保護者 90%以上
 ⇒地域住民 95%以上

- ① 全職員が率先してあいさつするとともに、児童会を中心としたあいさつ運動を実施することで、元気なあいさつの意識化、習慣化を図る。
- ② 全校生の模範となるあいさつ名人を各学級で認定することにより、児童同士のあいさつへの意識を高める。
- ③ 「あいさつをする意味や大切さ」について、学級活動や授業などで継続的に指導し、時と場に応じたあいさつができるようにする。また、学年日より等により家庭への啓発を図る。
- ④ 家庭や地域学校園、地域協議会と連携して、あいさつ運動を推進する。

B

【達成状況】

児童の肯定的回答率	94.7%
教職員の肯定的回答率	85.7%
保護者の肯定的回答率	85.8%
地域住民の肯定的回答率	90.7%

・児童・教職員・保護者・地域住民それぞれの肯定的回答率は、0.3ポイント、9.3ポイント、4.2ポイント、4.3ポイント下回った。児童は指標の達成ポイントに近いが、地域住民の肯定的回答率は前年に比べて10ポイント減少した。児童は挨拶をしているつもりでも、目上の人や地域の人に対して、相手に伝わる挨拶ができていないことが伺える。

【次年度の方針】

・引き続き全教職員による率先垂範やあいさつ運動等を継続し、習慣化を図る。さらに「相手の目を見ること」や「相手に伝わる声で挨拶すること」など、基本的な挨拶の仕方についても適宜指導していく。

B2 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。

【数値指標】全体アンケート「児童は、きまりやマナーを守って、生活している。」における肯定的回答
 ⇒児童 95%以上
 ⇒教職員 95%以上
 ⇒保護者 95%以上
 ⇒地域住民 95%以上

- ① 学校のきまり「陽南のよい子」に従って、全教職員の共通理解のもと常時指導を継続し児童にきまりやマナーが身に付くようにする。
- ② 「陽南授業・生活のきまり」をもとに、児童に自分の生活を振り返らせ、規範意識を高めるとともに、判断力・実践力の育成を図る。(振り返りは学年に応じて、年3回実施)
- ③ 生活目標を朝の会等で唱和させて意識化を図るとともに、あいさつ、姿勢、言葉遣い、返事などの目標を焦点化し、スモールステップによる定着化を図る。

B

【達成状況】

児童の肯定的回答率	91.7%
教職員の肯定的回答率	92.9%
保護者の肯定的回答率	93.1%
地域住民の肯定的回答率	92.7%

・児童・教職員・保護者・地域住民の肯定的回答率は、それぞれ指標をやや下回っているが、昨年度と比較すると、児童・教職員・保護者の肯定的回答率はいずれも向上している。継続した常時指導や生活目標の順守により、規範意識が向上してきたと思われる。

【次年度の方針】

・全教職員の共通理解のもと、「陽南のよい子」に基づき同一歩調で常時指導を継続していく。また、児童の実態から生活目標を設定するなどして、規範意識の薄い内容をしっかりと指導できるようにしていく。これらの活動を通して、規範意識の高揚を図りたい。

B3 児童は、コミュニケーションをとることで生活をより良くしようとしている。

【数値指標】全体アンケート「児童は、友達や周囲の人々とお互いにコミュニケーションをとることで、生活をより良くしようとしている。」における肯定的回答
 ⇒児童 90%以上
 ⇒教職員 90%以上
 ⇒保護者 90%以上

- ① 学級活動の話合い活動を通して、自分たちの学級生活がより良いものになるよう進んで意見を交換し、より良い学級を共に創っていかうとする気持ちや態度を育てる。
- ② 縦割り班清掃やっこり班活動の中での話合いを重視し、友達の意見を聞いたり互いに意見を出し合ったりしてよりよい活動にしていこうとする態度を育てる。
- ③ 毎日の学習や生活の中で、分からないことを友達や教員に聞いたり、自分の考えを友達や教員に提案したりすることが進んで出来るような環境の醸成に努める。

B

【達成状況】

児童の肯定的回答率	91.9%
教職員の肯定的回答率	92.9%
保護者の肯定的回答率	93.1%

・児童・教職員・保護者の肯定的回答率が全て、指標を上回った。

【次年度の方針】

・引き続き、①②③の取組を続け、様々な場面で、「自分の意見を話したり相手の考えを聞いたりすることが、生活をよりよくする大切な活動だ」ということを強く意識させていきたい。そして、話す力や聞く力がさらに高まるように、発達段階や個に応じて、具体的な取組をしていきたい。

<p>B4 児童は、宿題や自主学習、読書など家庭学習をしている。</p> <p>【数値指標】全体アンケート「児童は、宿題や自主学習、読書など家庭学習をしている。」における肯定的回答 ⇒児童 80%以上 ⇒教職員 85%以上 ⇒保護者 80%以上</p>	<p>① 低中高の実態に合わせて作成した「家庭学習のしおり」と「家庭学習ヒント集」を活用して常時指導し、家庭学習の定着を図る。また、課題の内容を工夫し、多様な学習への取組ができるよう支援する。</p> <p>② 自主学習ノートの展示コーナー等を設け、個々の頑張りを褒め励ますとともに、よさを広めていく。</p> <p>③ 懇談会や学年だより等で、家庭学習への取組について、保護者に啓発していく。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1"> <tr> <td>児童の肯定的回答率</td> <td>87.8%</td> </tr> <tr> <td>教職員の肯定的回答率</td> <td>96.4%</td> </tr> <tr> <td>保護者の肯定的回答率</td> <td>82.0%</td> </tr> </table> <p>・児童、教職員、保護者ともに肯定的回答率が指標を上回った。また、昨年度よりもポイントが上がっている。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>・引き続き①②③の取組を続けていく。</p> <p>・自主学習への取組などについて、地域学校園でも情報交換をしながら児童や保護者に啓発していく。</p>	児童の肯定的回答率	87.8%	教職員の肯定的回答率	96.4%	保護者の肯定的回答率	82.0%
児童の肯定的回答率	87.8%							
教職員の肯定的回答率	96.4%							
保護者の肯定的回答率	82.0%							
<p>B5 児童は、積極的に本とふれ合い、読書の楽しさを味わうとともに、豊かな心を培っている。</p> <p>【数値指標】全体アンケート「児童は、学校や家で積極的に読書に親しんでいる。」における肯定的回答 ⇒児童 80%以上 ⇒教職員 90%以上 ⇒保護者 80%以上</p>	<p>① 週2回朝の読書の時間を日課表に位置付け、図書館の開館も行う。</p> <p>② 多くの本と出会い、読書の楽しさを味わわせるために、月2回ボランティアによる読み聞かせを実施していく。</p> <p>③ 多読表彰や図書コーナーの充実（図書館だより、児童の読書の記録、おすすめの本の紹介などの掲示）により本に親しむ環境作りに努め、児童の読書意欲の向上を図る。</p> <p>④ 全教科の調べ学習に対応できるよう、司書と学級担任とが連携しながら必要とされる時期に必要な本の整備に努める。</p> <p>⑤ 読書の大切さを保護者に伝えたり、習慣化を促すため「家読」を呼び掛けたりする。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1"> <tr> <td>児童の肯定的回答率</td> <td>75.8%</td> </tr> <tr> <td>教職員の肯定的回答率</td> <td>89.3%</td> </tr> <tr> <td>保護者の肯定的回答率</td> <td>63.2%</td> </tr> </table> <p>・児童、教職員、保護者ともに肯定的回答率が指標を下回った。しかし、昨年度と比べるとポイントがやや向上している。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>・引き続き①～⑤の取組を継続していく。</p> <p>・特に指標を下回っている保護者の肯定的回答率が向上するように、図書館だよりや学級懇談会などを通して、児童の読書活動の様子や読書週間の行事、各学年に薦めたい本などについて発信していく。</p>	児童の肯定的回答率	75.8%	教職員の肯定的回答率	89.3%	保護者の肯定的回答率	63.2%
児童の肯定的回答率	75.8%							
教職員の肯定的回答率	89.3%							
保護者の肯定的回答率	63.2%							

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- ・「第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画」の策定に伴い、本年度から質問の一部が変更となったため、経年比較できない項目があるが、多くの項目において肯定的回答率が上昇し、数値指標を達成することができた。
- ・市全体との比較では、市の平均を上回った項目もあるが、市の肯定的回答率を下回っている項目が多かった。
- ・児童・教職員・保護者・地域住民それぞれの回答において、多くの項目で肯定的回答率が9割以上の高い数値を示している。特に地域住民の肯定的回答割合は、すべての項目で9割以上となった。
- ・「児童は英語を使ってコミュニケーションしている」「児童は時と場に応じたあいさつをしている」など児童に関する項目について、教職員の評価が昨年度より大きく向上した。市の平均には及ばない項目もあるが、地道な取組により一定の成果が見られるので、今後も児童のよさを認め励まし褒めながら、継続して指導していく。
- 「小中一貫教育」については、コロナ禍で実施できなかった「あいさつ運動」を復活したり、Google クラウドルームを活用した「ひまわりネット」で小・中学生によるオンライン会議を実施したりと、活発に活動していた。しかし、児童・教職員・保護者の肯定的回答率は市の平均より低かったため、次年度はより積極的な情報発信に努め、活動の周知を図る必要がある。
- 「地域学校園の取組」については、「家庭・地域・企業等との連携・協力」に関する項目において、児童・教職員の評価が昨年度より向上し、市の平均を上回った。地域住民の評価が下がっているため、今後はさらに地域や家庭と連携しながら新たな取組を模索していく必要がある。

7 学校関係者評価

- ・直接関わりをもつ機会が激減している昨今、表面的な姿だけを見て評価してよいものか悩んでしまうので、地域住民の評価は難しい。なるべく学校行事に参加し、教職員や児童の姿を観察したり、直接会話したりできるよう努力したい。
- ・学校だよりは行事や学校の様子を細かく知らせてくれるので、毎回楽しく拝見している。地域住民は、子供たちから活力をもらい、希望を抱いていける喜びをもらうことができるので協力していきたい。
- ・児童の挨拶の様子は向上していると思う。以前より大きな声で挨拶できるようになった子や目を見て挨拶できるようになった子、頭を軽く下げて挨拶する子など、一人一人に成長が見られ、気持ちのこもった挨拶が感じられる。

- ・今年度はコロナ明けで行事も多く行われ、地域と学校の連携は上向きになっていると思われる。
- ・子供たちは決まりやマナーを守ろうと頑張っていると思う。ただ、決まりについては一部見直すことも必要なのではないかと感じている。
- ・保護者の回答で指標を下回っている項目が多いことが気になった。それぞれの立場で、同じ目標に向かって一体となって目指していくことが大切だとみんなで確認していけるとよい。
- ・「活動の見える化」をして、具体的に外部に提示していけるとよい。すべての教育活動について、学校・保護者・地域全体で協力して、できることを探して検討していきたい。
- ・幼小一貫も小中一貫も時間をとることが難しいと思うが、互いに行き来する経験がまだまだ少ないと思う。強化月間（週間）などをつくって、繰り返し交流体験を増やしていく努力が必要だと思う。
- ・学習だけでなく何か活動があるときに地域の方々を呼んで見学や参加ができると、もっと学校が身近に感じられるようになるのではないかと。学校が忙しいことは十分わかっているが、何かひとつずつ実現できるようになるとよいと思う。
- ・「児童は宇都宮の良さを知っている」の全体評価が低いのは、各自治会にあった「子ども会」「老人会」が廃止・弱体化して自治会から消えようとしていることと関連していると思う。以前のように各自治会に「子ども会」「老人会」が復活することで、地域の活性化が図られ、学校・家庭・地域との連携がスムーズに行われて良き児童の見守りができ、児童は地域の良さや宇都宮の良さが分かるのではないかと。PTAや自治会が現状の危機感をもって話し合い、打開すべき道を模索できたらよいと思う。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

今後も、本校の学校運営の状況、教育活動の状況、健康・体力、学習、本校の特色や取組などについて積極的に発信しながら、開かれた学校づくり・地域とともにある学校づくりに努める。今年度の取組を継続・発展させながら、学校と保護者、地域が協力・連携を図り、地域に信頼される学校づくりを推進する。

◇次年度に向けての方向性

「心身ともに健康で創造性に富み、心豊かで実践力のある児童の育成」の目標を継続し、以下の学校像を目指して全職員が学校経営に参加しながら主体的に取り組んでいく。（★は特に重要課題として取り組む）

《確かな学力を育む学校》

- ★学び合いの向上 アフターコロナの社会での、多様な学び合いの場の設定
聞き手を意識した表現力の向上
- ・教師の授業力の向上 「楽しく・分かる・できる授業づくり」の実践
研修による資質・能力の向上 1人1台端末の効果的な活用 音楽科の授業の研究
- ・基本的学習習慣の定着 「陽南授業・生活のきまり」の徹底
- ・家庭学習の習慣化 家庭学習のしおりを活用した家庭との連携強化

《豊かな心を育む学校》

- ★基本的生活習慣の定着 教職員の統一步調のもと「陽南授業・生活のきまり」の徹底 教師の率先垂範
家庭・地域と連携したあいさつ運動、代表委員会によるあいさつ運動の推進
- ★規範意識の醸成 きまりやマナーを守る意義の理解
- ・読書習慣の定着 読書指導の充実（読書週間、読書集会等）、市図書館と連携した多様な図書の準備
読み聞かせの継続（ボランティア・教師）、家庭の協力を得た家読の推進
- コミュニケーション 縦割り班を主体とした異学年交流の充実（清掃活動、おおぞらタイムの遊び等）
能力の育成 思いやり・助け合いの心を養う道徳教育の充実
- ・人権意識の向上 人権週間・いじめゼロ集会の工夫 教職員によるいじめの早期発見・迅速な組織的対応
教育相談の充実「きらりコーナー」等を活用した自己肯定感・自己有用感の向上

《健康な身体を育み安全な学校》

- ・健康・体力の向上 うつのみや元気っ子プロジェクトに基づく運動の推進 休み時間の運動促進
- ・望ましい生活習慣・食習慣の定着 自己の心身を大切にし、健康的な生活習慣の定着を図る支援の充実
食に関する指導の推進、家庭との連携（給食日より、お弁当の日振り返りカードの活用）
栄養士による個別面談の充実（アレルギー対応等）
- ・安全に行動できる 警察や消防署、学校薬剤師と連携した授業の充実
能力育成 （避難訓練、交通安全教室、防犯教室、薬物乱用防止教室、喫煙防止教育、薬育教育、自転車免許講習、SNSやスマホ・携帯電話についての講座など）